

安来高校植物図鑑（2022年3月）

和名: コハコベ（小繁縷）

春の七草の「はこべら」のことです。春の花と言われていますが、安来高校では雪が降る時を除けば一年中咲いているように思います。花びらが10枚のように見えますが、実は5枚で、花びらの付け根の部分で2つに分かれているのです。ウサギの耳のような形をしているわけですが、花はそっくりでも、茎が赤紫色だと「コハコベ」、緑色だと「ミドリハコベ」になります。この2種はめしべの先端が3つに分かれているのが特徴です。他にも少し大きめの「ウシハコベ」という種があります。ウシハコベはめしべの先端が5つに分かれているので見分けやすいです。しかし、安来高校で見かけるのはコハコベだけ。ミドリハコベやウシハコベがないものかと敷地内を歩いてみるのですが、見つけたことはありません。



和名: ミミナグサ（耳菜草）



ミミナグサ



オランダミミナグサ

ちょうど1年前の2021年3月に、在来種のミミナグサは最近見られなくなったと述べたのですが、なんと安来高校内のとある場所に存在することを12月に見つけました！初めて見たので感動しました。この感動は理科の田中先生にしか分かってもらえませんでした。春になり花が咲くのを心待ちにしていたのですが、いくら待っても咲かない。もう、先に紹介することにします。ミミナグサは外来種のオランダミミナグサの名前の由来になった植物です。オランダミミナグサは全体

的に緑色なのですが、ミミナグサは全体的に暗紫色を帯びていて、地味な感じがします。地面と同化してしまっただけで踏みつけてしまいそうになることもしばしば。写真でもその違いは明確です。とても貴重なので、摘み取ったりしないで欲しいなと願います。

3月になると野草が咲き、虫が動き始めるので春を強く感じます。草むらを歩いていると、足元でテントウムシが動いています。テントウムシは常に動き回っていて、なかなか停止してくれないので、写真に撮りにくい生き物です。そして茎などを登り、高い所に到達するとすぐに飛んで行ってしまいます。生物の教科書ではテントウムシは「負の重力走性」を持つことで有名で、重力に逆らって上へ上へ移動してしまうのです。もう少し落ち着いてくれないかなあと感じてしまいます。

